

横浜市立八景小学校
平成30年度 学力向上アクションプラン

1 中期学校経営方針

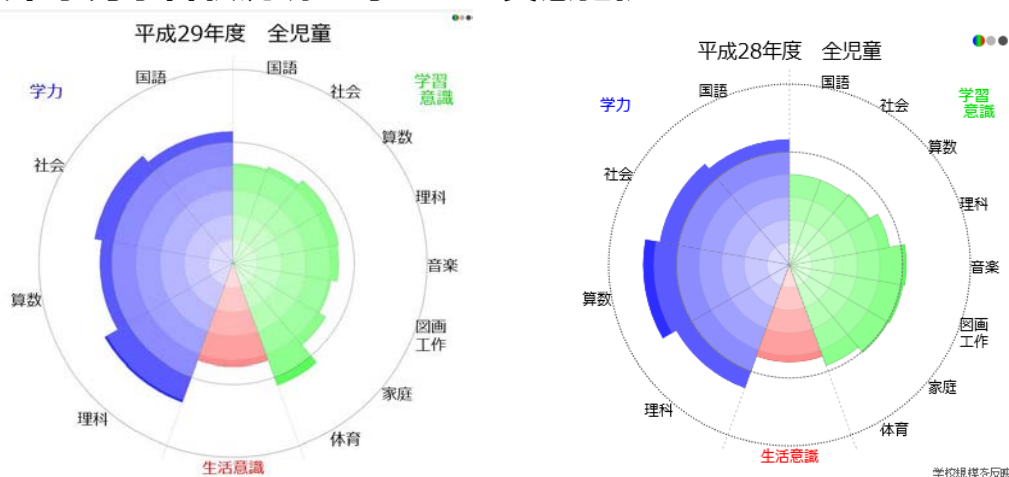
(1) 学校経営中期取組目標

学校経営中期取組目標	
<ul style="list-style-type: none"> ・自他の考えや思いを伝え合う力を育成する中で、互いのよさや違いを認め合ったり、思い合ったりする心情を育てます。 ・たてわりの「なかよし活動」や学年学級の活動、地域との協働を通して、人と人との豊かなかかわりや人権感覚の育成に努めます。 ・自分なりの課題をもち、体験的、問題解決的な学習や協同学習に取り組み、自ら学ぶ意欲や自尊感情の育成に努めます。 	

(2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野		取組目標	具体的取組
担当	教務	<ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感を育み学習意欲を高める授業の設計を進め、自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力を育てます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の子どもたちの実態を振り返り、重点研究のテーマを「自己肯定感を育み学習意欲を高める授業づくり」と設定した。「学習が楽しい」「友達から認められて嬉しい」と感じられる授業展開を目指していく。生活科と総合的な学習の時間を中心に研究を進め、いきいきと伝え合う子の育成や主体的に学び合う姿を目指す。

2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握



○学力の概要と要因の分析

全体的には、横浜市の平均の学力を上回っており、どの学年も特に偏りもなく概ね同じ傾向である。しかしその一方で、学習意識、生活意識は高くなく、学年に応じてばらつきが見られる。学習意識においては「国語や算数が好きだ」という児童は、学年が高くなるに従い、やや少なくなっている。「勉強がすき」「自分の考えを発表している」という児童の割合は、横浜市の平均を下回っている。生活意識については、「学校の決まりを守る」「あいさつをする」という児童が横浜市の平均を下回っているが、経年変化を見ると徐々に改善されてきている。また、「自分にはよいところがある」という項目は平均を上回っているが、「人とかかわることが好き」という項目は平均を下回っている。

これらのことから、人とかかわることに消極的な傾向がみられ、自己肯定感が十分に学習意識につながっていないことが考えられる。そこで「学習が楽しい」「友達から認められて嬉しい」と感じられる授業展開を目指し、興味・関心を高めるような学習活動の工夫していく。また、個に応じた指導を実施し、授業展開においては子どもの意欲と考えを引き出せるよう各教科で工夫していく。

3 平成30年度 学年・教科等としての具体的取組

1 学年

- 国語科等で、説明する文章、紹介する文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに、できる限り対話をする場面を位置付ける。
- 分からないこと、詳しく知りたいことを尋ねたり、気持ちを表情や態度、言葉で表したりしながら対話するように指導する。
- 自分の経験と結び付けて、感想や考えをもつように指導する。

2 学年

- 生活科等で、体験を通して自分の生活について考えられるよう報告する文章や説明する文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに話合いをする場面を位置付ける。
- 大事だと思った点を確認めたり、関連した情報を提供したりしながら話し合うように指導する。
- 自分の経験と結び付けて、感想や考えをもつように指導する。

3 学年

- 社会科等で見学・調査したことを説明する文章、記録する文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに、資料を見つけた活用したりする場面、話合いをする場面を位置付ける。
- 理由や根拠を尋ねたり、まとめたり補足したりしながら話し合うように指導する。
- 列挙したり、順序を付けたりして考える学習を計画的に位置付ける。

4 学年

- 算数・理科等で説明する文章や記録・報告する文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに、話合いをする場面を位置付ける。
- 反対の意見を出したり、相手の考えを取り入れ自分の考えを述べたりしながら話し合うように指導する。
- 順序を付けたり関連付けたりして考える学習を計画的に位置付ける。

5 学年

- 教科等で説明する文章、意見を述べる文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに、話合いをする場面を位置付ける。
- 相手の話を一般化したり、経験を加えて拡張したりしながら話し合うよう指導する。
- 関連付けたり分類・整理したりして考える学習と振り返りを計画的に位置付ける。

6 学年

- 教科等の学習で今まで身に付けた様々な文章を書く力を発表等で効果的に表現できるようにするとともに、話合いをする場面を位置付ける。
- 曖昧な点を明確にしたり、違った視点を打ち出したりしながら話し合うように指導する。
- 関連付けたり、分類・整理したり、多面的に考えたりする学習と振り返りを計画的に位置付ける。

個別支援学級（4組）

- 個別的教育支援計画・個別の指導計画に基づき、話し言葉、表情、仕草、書き言葉等、発達段階に応じた適切なコミュニケーション手段を積極的に活用する場面を位置付ける。
- 子どもの発達段階に応じて、各学年の取組を参考にし、必要な取組を行う。
- 子どもに応じた分かりやすい情報発信をするなど、言語環境の整備を行う。